令和６年度　基本評価調書	所管部局	経済部	所管課	雇用労政課

施策名	多様な人材の就業促進	施策コード	0521
政策の柱	就業・就労環境	政策体系コード	2(4)A
関連重点戦略計画等	北海道創生総合戦略、知事の基本政策	事務事業数	6
特定分野別計画	第2期北海道雇用・人材対策基本計画		
SDGs		総合判定	順調

予算額（千円）	R6	281,737千円	R5	271,304千円	R4	277,377千円

施策目標	・若者、女性や高齢者、障がいのある人、就職氷河期世代を含む長期にわたり無業の状態にある方や不安定な就労状態にある方々などの労働参加を促進するため、関係機関と連携し、それぞれの状況に応じた就業支援を進め、雇用・就業機会の拡大の取組を推進する。 ・季節労働者の通年雇用化に向け、地域の関係者から構成される通年雇用促進協議会の活性化や、冬期間における雇用の場の確保、季節労働者の技能の向上や事業主の意欲喚起を促進する。
現状と課題	（多様な働き手の労働参加の促進） ・若者の卒業後3年以内の離職率は全国を上回って推移。また、就職氷河期世代を含む無業者や不安定な就労状況にある方は、抱えている課題も様々なことから、きめ細かな支援が必要。 ・女性の就業率は全国と比べて低い状況にあり、復職を希望している方など、就業意欲のある女性に対して、多様なニーズに対応した支援が必要。 ・人手不足に対応するには、女性や高齢者など潜在人材の就業意欲を喚起し、就業につなげることが必要。 ・65歳以上の就業率は上昇傾向にあるものの、全国平均を下回っており、高齢者雇用の普及啓発や就業開拓を促進する必要がある。 ・障がいのある人の民間企業における実雇用率は、全国平均を上回っているものの、多くの企業が法定雇用率を達成していない状況であり、道内経済団体等に対し要請活動を実施する必要がある。 （季節労働者の通年雇用化の促進） ・季節労働者数は、年々減少しているが、その多くは冬期間に就労機会を失うなど不安定な就労環境に置かれているため、国や関係機関との連携を強化し、冬期間における雇用の場を確保していく必要がある。

〈主な取組〉

今年度の取組	（多様な働き手の労働参加の促進） ・ジョブカフェ、ジョブサロンにおいてキャリアカウンセリングや各種セミナー等を実施。 ・就職氷河期世代への支援として、道内各地域において個別出張面談・企業相談会を実施するとともに、専門の相談員によるカウンセリング等を実施。 ・マザーズキャリアカフェ（MCC）を設置し、子育て中の女性の再就職を支援。 ・「子育て女性等の就職支援協議会」（北海道労働局主催）において各関係機関と連携。 ・シルバー人材センター連合会が行う事業を支援するとともに、パネル展などによる啓発を行い、センター事業の活用を促進する。 ・経済団体等への障がい者雇用の要請、雇用促進フェア（就職面接会）の開催、障がい者雇用関係表彰、障害者就業・生活支援センターの指定業務、特別支援学校の見学会など、障がい者の就業を促進する。 （季節労働者の通年雇用化の促進） ・季節労働者の雇用確保や就職促進などを通じた通年雇用化に取り組んでいる通年雇用促進協議会の組織運営体制の強化を図るなど、国や地域との連携を密にし、季節労働者の通年雇用化を促進する。
実績と成果	（多様な働き手の労働参加の促進） ・ジョブカフェ、ジョブサロンにおいてキャリアカウンセリングやセミナー等の支援を実施したことにより、求職者の就業促進に繋がった。 ジョブカフェ　利用者延べ数 R4:24,933名　R5:24,006名、 就職者数 R4:6,371名　R5:6,392名 ジョブサロン　利用者延べ数 R4:7,634名　R5:6,041名、 就職者数 R4:778名　R5:641名 マザーズキャリアカフェ　利用者延べ数 R4:1,225名　R5:1, 556名、 就職者数 R4:155名　R5:161名 ・北海道シルバー人材センター連合会に対する事業支援、取組を紹介するパネル展を開催するなど、高齢者の就業を促進した。 センターへの補助金　6,699千円（R5年度）　・パネル展の開催　令和5年9月26日～27日 ・経済団体への障がい者雇用の要請、道内6地域で雇用促進フェア（就職面接会）を開催、障がい者雇用関係表彰の実施、障害者就業・生活支援センターの運営、特別支援学校企業向け見学会の実施などにより障がい者雇用の取り組みを促進した。 フェアの開催（道内6地域　令和5年10月16日～11月9日） 表彰者数　R3：3名、R4：2名、R5：4名　　・見学会の開催校　16校、R3：16校、R4：17校、R5：17校 （季節労働者の通年雇用化の促進） ・北海道労働政策協定に基づき、北海道労働局との共催で通年雇用促進支援事業説明会を実施した。 令和5年7月26日、道庁別館地下1階大会議室、協議会及び市町村職員 90名参加

参考HP①	第2期北海道雇用・人材対策基本計画（R6年度～R9年度）	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/rkr/183363.html
参考HP②	ジョブカフェ北海道	https://www.jobcafe-h.jp/
参考HP③	季節労働者対策に関する取組方針について	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/rkr/sr/hoshin5.html

令和6年度 基本評価調書	【2(4)A_0521】多様な人材の就業促進

〈指標分析〉 ⇒成果指標は、原則、取組項目ごとに1つ以上、全体で5つ以下とする

指標名①	増加	%	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
若者(25～29歳)の就業率(暦年)		目標値	85.1	85.3	85.5	88.6	100.4%	A
		実績値	82.9	85.4	85.8			

設定理由	若者や新規学卒者など様々な状況に置かれた若者の就業促進の状況を測る指標であり、多様な人材の就業促進といった施策の目標に関し、若年者の就業促進への課題の取組に関する成果を測る指標として設定。
指標公表時期	毎年調査、1月公表
出典(根拠計画等)	総務省「労働力調査」

分析(主な取組と成果)

ジョブカフェにおいて、カウンセリング、セミナー及び合同企業説明会等の支援を実施し、本道における若者の就業状況に改善が見られ、目標達成となった。

指標名②	増加	%	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
高齢者(65歳以上)の就業率 (暦年)		目標値	25.1	25.2	25.2	27.4	92.5%	B
		実績値	21.7	22.6	23.3			

設定理由	多様なスキルや豊富な経験を活かして、高齢者が仕事に就き、地域や産業で活躍できる社会の状態を測る指標であり、高齢者の就労促進への課題の取組に関する成果を測る指標として設定。
指標公表時期	毎年調査、1月公表
出典(根拠計画等)	総務省「労働力調査」

分析(主な取組と成果)

就業率については、北海道シルバー人材センターと連携を図るなど、高齢者の就労促進に向けた様々な取組を行っているが、現状と課題にも記載したとおり上昇傾向にあるものの、全国平均を下回っており、目標達成に向けては、引き続き、北海道労働局をはじめ関係各部各課及び関係機関と連携して取組を進めていくことが最も重要と考える。

指標名③	増加	%	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
女性の就業率(暦年)		目標値	-	-	49.2	51.6	100.0%	A
		実績値	47.5	48.0	49.2			

設定理由	結婚等により離職後、再就職を希望する子育て女性を始めとした働きたい女性など様々な状況に置かれた女性の就業促進の状況を測る指標であり、女性の就業促進への課題の取組に関する成果を測る指標として設定。なお、本指標はR6年度より新たに設定したものであるため、R5年度以前の目標設定はない。
指標公表時期	毎年調査、1月公表
出典(根拠計画等)	総務省「労働力調査」

分析(主な取組と成果)

ジョブカフェ、マザーズキャリアカフェ等において、様々な事情を抱えた女性の多様なニーズに対応した就業支援を実施し、本道における女性の就業状況に改善が見られ、目標達成となった。

指標名④	増加	%	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
障がいのある人の実雇用率(民間企業)(暦年)		目標値	2.30	2.30	2.30	法定雇用率以上	112.2%	A
		実績値	2.37	2.44	2.58			

設定理由	障がいのある方々が仕事に従事し、地域で活躍できる社会の状態を測る指標であり、障がい者の就労促進の課題の取組に関する成果を測る指標として設定。
指標公表時期	毎年調査、12月頃公表
出典(根拠計画等)	厚生労働省北海道労働局「障害者雇用状況の集計結果」

分析(主な取組と成果)

目標を上回った理由としては、経済団体等への障がい者雇用の要請、雇用促進フェア(就職面接会)の開催、障がい者雇用関係表彰、特別支援学校の見学会などの事業により、障がい者雇用への企業意識も高まり、法定雇用率の引き上げとも相まっての成果があったことが大きいと見られ、それにより前年度より実雇用率が増加したものと考える。

指標名⑤			R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					－	－
		実績値						

設定理由	
指標公表時期	
出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

令和6年度 基本評価調書	【2(4)A_0521】多様な人材の就業促進

〈取組分析（連携状況、緊急性・優先性）〉

連携状況	(課題) 求職者等の就職支援については、各支援機関が連携し、求人情報、訓練情報の提供、職業相談、個別カウンセリングの実施、セミナーやイベントの開催等を一体的に実施することで、効果的な就職支援と利便性の向上を図ることが必要。 (取組と成果) 道、北海道労働局、高齢・障害・求職者雇用支援機構の三者で締結した「北海道労働政策協定」に基づき、「ジョブカフェ北海道」と「札幌わかものハローワーク」、「札幌新卒応援ハローワーク」による若年者に対する支援、「ジョブサロン北海道」の地方拠点と地元のハローワークによる支援等を一体的に行うことで、効果的な就職支援に繋がった。
緊急性 優先性	(課題) ・本道の若年者や女性の就業率は全国と比べて低い状況にあり、最近の雇用情勢も、令和6年6月現在、月間有効求人数が15ヶ月連続で前年同期を下回っていることから、求職者に対する継続的な支援が必要。 ・就業が容易ではない若年無業者や就職氷河期世代への継続的な支援も必要。 (取組と成果) ・求職者に対する専門的なカウンセリングなどにより、本人の能力や適性に応じた職種へ誘導するともに、企業に対して個別の人材確保・職場定着支援を行っている。 ・若年無業者の自立化や就職氷河期世代の安定就労に取り組む「地域若者サポートステーション」に対する支援の拡充等について、国に要望している。(R6年5月)

〈その他統計数値等〉

その他統計数値等①	過年度①	過年度②	最新年度
ジョブカフェ北海道での若年者の就職内定者数	6,684人(R3年度)	6,371人(R4年度)	6,392人(R5年度)

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)
新規学卒者(高校・大学等)の就職内定率に大きな落ち込みは見られないものの、卒業後3年以内の離職率は全国を上回って推移しており、職場定着の支援や就職時におけるミスマッチ解消が必要。

(状況) 就職時のミスマッチや早期離職を防ぐため、引き続き、就職前職業ガイダンスやインターンシップの促進、企業見学会等の取り組むとともに、企業に対して職場定着に向けた相談対応などに取り組んでいく。	a

その他統計数値等②	過年度①	過年度②	最新年度
ジョブサロン北海道での中高年齢者等の就職者数	765人(R3年度)	778人(R4年度)	641人(R5年度)

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)
中高年者の就業率は、概ね横ばい傾向にあるが、無職者の中には、就職に不安を持つ者が多いことに加えて、就職氷河期世代は、これまで不安定な就労を繰り返しており、抱えている課題もさまざまであることから、きめ細かな支援が必要。

(状況) 本人の希望と企業側の採用ニーズが乖離しているなど、中高年の求職活動(ジョブサロンの利用期間)は長期化する傾向があるので、引き続き、求職者個々の事情に応じたきめ細かな就業支援を行っていく。	c

その他統計数値等③	過年度①	過年度②	最新年度
季節労働者の通年雇用化数	3,650名(R2年度)	3,370名(R3年度)	2,879名(R4年度)

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)
季節労働者数の多くは、冬期間に就労機会を失うなど不安定な就労環境に置かれているため、雇用確保や就職促進などを通じた通年雇用化を促進する必要がある。

(状況) 「季節労働者対策に関する取組方針(第6次)」では、R2年度からR5年度までの4年間に14,000人の季節労働者を通年雇用化することを成果目標としており、R3年度までの通年雇用化数は、目標10,500人に対し、9,899人と目標を下回ったものの、季節労働者数は昭和55年の30万人をピークに減少を続け、令和4年度では35,936人(R3年度は38,396人、R2年度は、41,696人)と、着実な通年雇用化の進展がうかがわれる。	b

令和6年度 基本評価調書	【2(4)A_0521】多様な人材の就業促進

〈総合判定〉

指　標　判　定	A	連　携　状　況	○	総　合 判　定	順調
		緊急性・優先性	○		
		その他統計数値等	b		

※ 成果指標の指標判定が「D」の指標

（該当なし）

	対応方針番号	内容
翌年度に向けた対応方針	①	中高年求職者に対し、専門的なカウンセリングを通じて、本人の能力や適性に応じた職種へ誘導するとともに、引き続き、スキルアップに資するセミナーや合同企業説明会等の支援を行う。
	②	高齢者（65歳以上）の就業率が全国平均の目標値より低いのは、全国よりも高齢化率が高く過疎地域が多いことが要因の一つでもあり、低水準に止まっていたと考えられる。今後も北海道労働局をはじめ、関係各部各課及び関係機関と連携を図りながら、就労支援に取り組んで行く。
	③	

〈二次政策評価〉

二次政策評価	

〈ＡＣＴＩＯＮ〉

二次政策評価への対応		
翌年度施策の方向性	対応方針番号	方向性
	①	ジョブサロンにおいて、中高年求職者に対して専門的なカウンセリングを通じて、本人の能力や適性に応じた職種へ誘導するとともに、スキルアップに資するセミナーや合同企業説明会等の支援を行う。
	②	地域における高齢者の就業促進に向けては、従来の取組を継続するとともに、事業主をはじめ、広く道民全体の理解を深めるための広報活動の充実により、高齢者の雇用に係る一層の機運の醸成を図る。
	③	

令和６年度　事務事業評価調書	施策名	多様な人材の就業促進	施策コード	0521

整理番号	重複施策	経費区分	事務事業名	事務事業概要	課・局室名	前年度からの繰越事業費（千円）	事業費（千円）	うち一般財源	執行体制 本庁	執行体制 出先機関	執行体制 人工計	フルコスト（千円）	一次政策評価 対応方針番号	一次政策評価 方向性	二次政策評価意見	ACTION 結果への対応（令和6年度） 次年度方向性	ACTION 結果への対応（令和6年度） 二次評価意見への対応状況
0819		一般	北海道就業支援センター事業費	若者や女性、中高年齢者の就業支援をワンストップで実施するほか、企業の人材確保や職業定着を支援するとともに、在職者向けカウンセリングを実施	雇用労政課	0	80,870	80,870	4.0	1.4	5.4	124,124	①	改善（指標分析）		改善	
0820		一般	多様な人材の安定就業促進事業	若年者や女性など多様な働き手の人手不足産業等への就業促進に向け、カウンセリングの実施、就業体験の提供、合同企業説明会の開催等を行う	雇用労政課	0	143,774	28,755	1.5	0.0	1.5	155,789					
0821		一般	季節労働者雇用対策費（季節労働者通年雇用促進地域対策事業費）	国の通年雇用促進支援事業を受託する協議会における地域独自の取組に対する支援のほか、当該協議会が実施する季節労働者資格取得促進事業への支援、冬期増嵩経費の措置 ※冬期増嵩経費は他部計上	雇用労政課	0	31,758	31,758	2.0	2.4	4.4	67,002					
0822		一般	高年齢者労働能力活用事業費補助金	シルバー人材センターの健全育成・設置促進を図るため、道内シルバー人材センターの指導調整機関である（社）北海道シルバー人材センター連合会に対し補助	雇用労政課	0	6,699	6,699	1.0	0.0	1.0	14,709	②	改善（指標分析）		改善	
0824		一般	就職氷河期世代就業支援促進事業	道内各地域において、就職氷河期世代に向けた個別出張面談・企業相談会を実施するとともに、専門の相談員によるカウンセリング等を実施する。	雇用労政課	0	7,737	7,737	1.0	0.0	1.0	15,747					
0809	0520,0522	一般	潜在人材掘り起こし推進事業（デジ田交付金）	女性・高齢者・障がい者といった潜在的労働力の掘り起こしを行うとともに、短時間業務の切り出しなどによる企業の新たな求人の創出を支援することにより、道内の新規就業を促進する。	雇用労政課	0	10,899	5,550	1.0	0.2	1.2	20,511					
											0.0	0					
											0.0	0					
											0.0	0					
											0.0	0					
											0.0	0					
											0.0	0					
											0.0	0					
計						0	281,737	161,369	10.5	4.0	14.5						